



“ジュネーブから今を見る” 今日のヘッドライン

アジア

2017年4月18日

市場予想を上回った中国1-3月期GDP

中国の1-3月期GDPは2017年の成長目標を上回り、堅調な景気回復が示されました。景気回復のリード役は固定資産投資などで、中国景気の底堅い推移も当面は想定されますが、内容を見ると持続性に懸念も見られます。

中国1-3月期GDP: 投資回復などを背景に前年同期比6.9%増と市場予想上回る

中国国家统计局が2017年4月17日に発表した1-3月期のGDP(国内総生産)は前年同期比6.9%と、市場予想(6.8%)、2016年10-12月期の6.8%を上回りました。7-9月期の成長率は6.7%であったことから中国のGDP成長率は2四半期連続で加速しました。

どこに注目すべきか:

中国GDP、雄安新区、鉱工業生産、小売売上

中国の1-3月期GDPは2017年の成長目標(6.5%前後)を上回り、中国の景気回復が堅調であることを示しました。景気回復のリード役には固定資産投資(図表1参照)などがあげられます。中国景気の底堅い推移も当面は想定されますが、内容を見ると持続性に懸念も見られます。

まず、中国1-3月期GDPを下支えした項目を振り返ると、工業や建設などで構成される第2次産業が好調でした。1-3月期GDPと同日に公表された3月の鉱工業生産が上昇していることは(図表2参照)、第2次産業の好調さを裏付けています。固定資産投資は高水準での推移です(図表1参照)。以前は鉄道などインフラ投資が支えていた時期も見られますが、この1年程は不動産投資の伸びも下支え要因となっています。目先の見通しとして、4-6月期を見渡しても中国の輸出に回復が見られることから鉱工業生産などは上昇の勢いを維持することも期待されます。

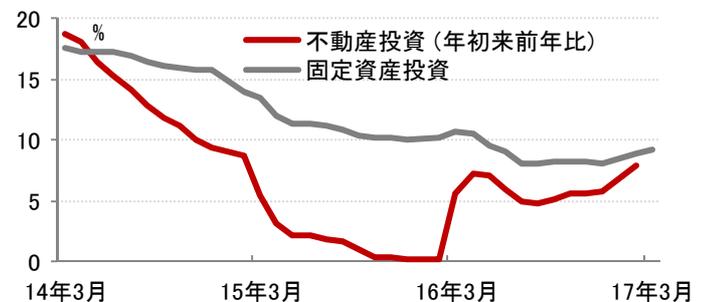
不動産投資では、4月に河北省雄安新区の設立が発表され同地域の不動産市場にブームが起きています。中国では新区は過去多く公表されていますが、注目度が低いままであるケースが多く見られました。しかし、習近平政権の思い入れが強いと見られる雄安新区への期待は、規模の大きさなどから中長期的な中国経済の成長要因とも考えられます。幸先のいいスタートとなった中国経済、当面の回復は見込めるものの、持続性の点は気懸かりです。例えば、鉱工業生産は3月急回復しましたが、基本的に投資から小売への構造改

革を推進する必要があると見られる中国では、今回のような回復の持続性に懸念が残ります。一方で、中国の今後の成長のコアとなるべき個人消費(小売売上高で代替)は3月単月を見れば健闘したとも言えますが、1-3月期で均すと回復に鈍さも見られます。

雄安新区は成長要因として見込まれます。ただ、報道等でも電撃発表と伝えられるなど、プロジェクトの内容は不確定ですが、その割に期待が先行しすぎている点は気懸かりです。公表された中国の1-3月期GDPなどは、2017年の成長目標越えをも期待させるデータです。ただ、持続性の点で年後半に若干のスピード調整の可能性も考えられます。

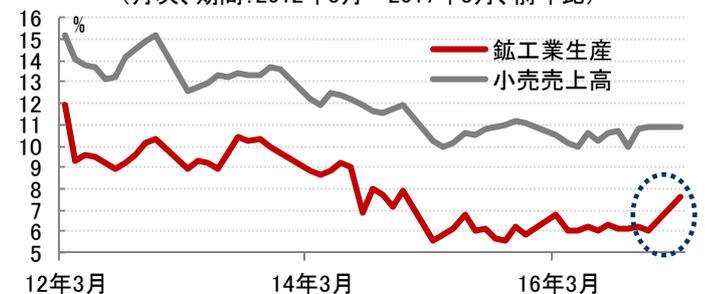
図表1: 中国固定資産投資と不動産投資の推移

(月次、期間: 2014年3月~2017年3月、不動産投資は2月迄、前年比)



図表2: 中国鉱工業生産と小売売上高の推移

(月次、期間: 2012年3月~2017年3月、前年比)



出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成



ピクテ投信投資顧問株式会社

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。